

印刷統計(2017年5月)

Table with 5 columns: Year, Total Production, Publishing, Commercial, and Office. Rows include 2009-2016 annual data and 2016 monthly data from June to May.

※2016年合計と16年6～12月は年報により修正済み

入賞22作品決まる

日本印刷産業連合会と日本書籍出版協会が主催する第五回造本装幀コンクールの審査会が三日に開かれ、入賞二作品が決まった。応募一三六番三三〇点から文部科学大臣賞に...

入賞作品は来年二月にド館で行い、「神保町ブックフェスティバル」開催中の十一月三日から五日まで同千代田区の東京堂ホールで一般に公開展示する。文科大臣賞とともに三賞に位置付けられる経済産業大臣賞は響文社「根源乃手」...

日本の写真家の展覧会

DNP奇蹟「レクシ」からセレクト MEEP 大日本印刷が一九九四年から〇六年にかけて二回...

PrintNext2018

「強い会社になる為に」

学びから具体的手法の提案へ

印刷関連青年組織の合同イベント「PrintNext2018」の概要を、実行委員会が十二日に開いた会見で発表した。来年二月十日に大阪市北区の大阪市中央公会堂で開く同イベントは「強い会社になる為に、そして企業を永く継続する為に。」をテーマに掲げ、これまでの「学び」中心から脱却し、強い会社をつくるための具体的手法の提案で全国八ブロックのメンバーが競う「ブリンネック大坂の陣」をメインコンテンツに据えた。登録料は一万五、〇〇〇円に設定し、八月末から九月初めをめどに参加登録の受付を開始する。

長(大阪・美生社)は基調講演を設定せず、「ブリンネック」で「自ら考え、行動し、経験する」という「体験型・参加型」のイベントにしていく方針を示した。「継続」もポイントとして挙げ、「ブリンネック」を語先輩がどのような思いで続けてきたか。(二〇〇四年の)プリント4から数えて八回目になり、いろいろな意見がある中で継続は大事だと思つ、これは自分にも言えることで、自分たちの会社を継続するために思い浮かんだのが「強い会社」だったと、テーマに込めた思いを語った。前面に出している「強い会社」は「選ばれ続ける」「必要とされる」会社であり、



概要を発表する山本実行委員長

り、「自ら仕事を作り出すことができる」会社と定義した上で、多様な企業・人材が集まっている印刷関連のリリースを生かして、これまで苦手で業界全体の課題だった「自ら仕事を作り出す」ことを体験していく企画を用意した。全国八ブロックでターゲットを二者選定し、三カ月

間、「地域の課題を解決すること」に挑む。実行委員会が支給する予算各三〇万円を使い、▽紙媒体での企画を取り入れる▽紙媒体以外の媒体も取り入れる▽デジタル媒体は無制限一を条件に取り組み、当日は二十分以内で「ビデオ・アフター」情報も交えて成果を発表し、参加者の投票でナンバーワンを決定する。「自ら仕事を作ることができるか」が目標であることから、審査は「結果」よりも「過程」を重視する。すでに取り組みはスタートし、これまで各ブロック一〇人程度、総数で二〇〇人を超えるメンバーが参加

しているが、動員目標四〇〇人からすると十分とは言えない。より多くの人々が「体験・参加」するためソーシャルメディアなどを活用して参加を働き掛けるとともに、実行委員会を構成する三団体の活動を通じた周知でその機運を高めていく。

「未知の創造」をテーマに掲げた全日本印刷工業組合連合会全国青年印刷人協議会は九月から始める全国各地でのブロック協議会、年間三天イベントの「大阪セミナー」と位置付けている。今年度事業では「新しい出会いを作る場の提供をしていこう」とやっており、業界の垣根を超え、全国の青年印刷人の出会いの場として努力していきたい、S

通信機能付き薬箱

「未来の印刷大賞」も実施 恒例企画となった「未来の印刷大賞」も実施する。「親子で語ろう未来の印刷」をテーマに、印刷に関わる仕事をしている人の子どもを対象に作品を募集する。作品作りを通して印刷について親子で語り合う時間をつくることで、印刷業界の未来を担う若者へ「タスキ」をつなぐ機会にしたい。子どもが成長した時に印刷はどのような存在になっているかを親子で語り、考え、共に作り上げた作品であれば作文や絵画、立体物、映像などジャンルは問わない。締め切りは十月三十一日、最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞などを授与し、作品は当日の会場内で展示する。

同社は、一九九〇年のパリ写真月間に開催された「両次大戦間の日本の写真」日本の広告写真の二つの展覧会への協賛を契機にMEPへ日本の写真家の

にわたる、仏・パリ市立ヨーロッパ写真館(MEEP)に寄贈した第二次世界大戦以降の日本の写真家の作品を集めた「DNP奇蹟「レクシ」」の中から、MEPがセレクトした約三三〇作品の展覧会「記憶と光」日本の写真一九五〇・二〇〇〇」が同館で開催されている。日本を代表する写真家の一九四五年から二〇〇〇年までの写真が総合的な形でパリで公開されるのは、一九八〇年代以降初めてという。

「通信機能付き薬箱」は、印刷機は、デンソーウェアと共同開発した。EIPと共同で、iPadを活用してICタグ薬箱を管理でき、家庭や療養施設向けでの活用が期待できるという。服薬履歴や残薬量をクラウドで管理することにより、患者と医療従事者双方の負担軽減、遠隔地からの見守りサービスとしての有効性も期待できるとしている。今回開発した薬箱は、患者と処方薬とを個別にひも